

新任教員研修会

授業改善アンケート

FD・SDセミナー 1

「学部等連係課程制度を活用した新たな学位プログラムの設置について」

FD・SDセミナー 2

「設置基準改正と高等教育政策動向を踏まえて求められる大学の対応」

FD・SDセミナー 3

「自己点検・評価活動および第4期認証評価への理解を深め、対応すべき事項を知る」

FD・SDセミナー 4

「生成AIとの幸せな付き合い方～テクノロジーを味方につけよう～【事務業務編】」

FD・SDセミナー 5

「生成AIとの幸せな付き合い方～テクノロジーを味方につけよう～【教育利用編】」

各学部及びセンターのFD・SDへの取り組み

2025年度活動計画



副学長・FD・SD小委員会委員長

都築 幸恵 教授

はじめに

本冊子では、本学教職員の資質および能力の向上を目的として、毎年度実施しているFD・SD活動の取り組みをご紹介します。

2024年度は、学部等連係課程制度、設置基準改正と高等教育政策動向、第4期認証評価、生成AIの教育・業務への活用など、それぞれ意義深いテーマについて、各分野の専門家を講師にお迎えし、全5回のFD・SDセミナーを開催いたしました。講演後には活発な質疑や意見交換が行われ、学びを深める貴重な機会となりました。

本冊子が、皆さまの今後の教育・研究活動や学内業務に少しでもお役に立てば幸いです。ぜひご一読くださいますようお願い申し上げます。

2025年9月

新任教員研修会

新任教員の先生方に一日でも早く本学をご理解いただき、円滑な教育活動を進めていただくための一助として、毎年、新任教員研修会を実施しています。

2024年度は、専任教員12名(経済学部2名、文芸学部3名、法学部4名、社会イノベーション学部3名)、非常勤講師61名を対象に、下記の内容で実施しました。

対面による研修会(専任教員)

日時 2024年4月5日(金) 15時~16時45分
場所 成城大学 歴史記念館

<プログラム>

- 第一部** 学長からの説明(15分)
~大学の取り組み等について~
- 第二部** 成城学園の歴史について・
歴史記念館の見学(30分)
- 第三部** ワークショップ(60分)



研修(対面)当日の様子

各部局からの説明動画(オンデマンド)： 配信期間4月1日~4月30日

内容	対象者	担当
授業・成績・試験・レポートに関すること、学年 暦、LiveCampusU、シラバス等について	専任教員・ 非常勤講師	教務部
各種アンケート(授業改善・大学IR学生アン ケート)、教育改革支援、FD・SD活動支援、IR 活動支援、PT(ピアチューター)、なんでも相 談窓口等について		教育 イノベーション センター
特別な支援を必要とする学生について		バリアフリー 支援室
教育研究用ネットワーク、情報関連設備、教 材作成設備、e-learningツールとその利用方 法について	専任教員	メディア ネットワーク センター
専任教員対象の補足説明		総務課
教員業績システムについて 研究支援(科学研究費助成事業、特別研究 助成費等)について		研究機構事務室

授業改善アンケート



2024年度は、大学、大学院の全科目を対象とした全学的な授業改善アンケートを前期、後期の2回実施いたしました。2020年度以降すべての対象授業についてWEBアンケートシステムを利用して実施してきましたが、2022年度より対面授業については以前のマークシート方式に戻し、原則、授業内で回答を依頼する形で実施、オンデマンドやリアルタイム配信などのメディア授業については、LiveCampusUによって受講生に個人通知を行い、同じ設問形式にて、Webアンケートシステムを通じて回答を求める形で実施いたしました。

実施状況は、実施任意科目も含め、前期1,046科目中962科目(実施率92.0%)・後期1,588科目中1,288科目(81.1%)でした。

アンケートの集計結果は、LiveCampusUで学内公開し、別途、科目別集計表を各科目担当者へ、大学全体集計表、科目開設部門別集計表、授業形態別集計表を学長、学部長、研究科長、共通教育研究センター長、データサイエンス教育研究センター長、国際センター長、キャリアセンター長へ報告いたしました。

この集計結果を授業改善に役立てたいと考えておりますので、今後とも本アンケートにつきまして、ご協力いただきたくお願いいたします。

アンケート集計結果はWeb上で公開しております。



FD・SDセミナー1

主催：学長室
共催：教育イノベーション委員会FD・SD小委員会

「学部等連係課程制度を活用した 新たな学位プログラムの 設置について」

講師 河本 達毅 氏 (桐蔭横浜大学 副学長・事務局長)

日時 2024年6月11日(火) 18時～

場所 322教室 参加対象 成城学園教職員

2019年8月の大学設置基準改正により、「学部等連係課程」が制度化され、大学が自らの判断で機動性を発揮し、学内資源を活用して、学部横断的な教育に積極的に取り組めるよう、新たな「学位プログラム」を設置できるようになったことから、当該制度にいち早く取り組まれた桐蔭横浜大学の河本氏をお招きし、「学部等連係課程」の制度概要や設置申請に向けた一連の事務手続き等についてご教示いただくべく、本セミナーを開催いたしました。

講演では、中央教育審議会における答申改正からの「学部本位の大学教育」の歴史や背景を導入とし、その上で「学部等連係課程制度」とは学生のためのプログラムに教員が集うシステムであるという理解を前提に、導入を検討する際のポイントや定員管理の考え方等について詳細にご説明いただきました。

更に、桐蔭横浜大学において「現代教養学環」を設置するに至った経緯、特に専門分野における新しいプログラムではなく、あえて学士課程教育(ボリュームゾーン)での設置をするにあたっての実務におけるご苦労など、率直なお話をいただきました。

ご講演後は学内教職員から質問が寄せられ、活発な質疑応答が行われました。

本学における検討のポイントを、参加した教職員全員がより深く考える契機となる貴重な機会となりました。

参加者内訳

所 属		人 数
学内	教員	23名
	職員	19名
計		42名



河本氏によるご講演



参加教職員からの質問

FD・SDセミナー2

主催：教育イノベーション委員会FD・SD小委員会 「設置基準改正と高等教育政策動向 を踏まえて求められる大学の対応」

講師 宮林 常崇 氏(東京都立大学 理系管理課長(学務課長兼務))

日時 2024年7月17日(水) 18時～

場所 321教室 参加対象 本学教職員

大学設置基準等の一部を改訂する省令等は2022年9月30日に公布、同年10月1日から施行され、学修者本位の大学教育の実現に向けた大きな改正として注目されました。大学のこれからの在り方を大きく変える改正であるため、本学としてもこれらに対応すべく、2023年度に第一弾のFD・SDセミナー「設置基準改正に伴う対応を考える」を開催し、宮林氏にご講演いただきました。この度は、その第二弾として再び宮林氏をお迎えし、主要な改正事項とその対応のポイント等について、詳しくお話をいただきました。

ご講演においては、「内部質保証」「学習成果」「教学マネジメント」といった政策キーワードの振り返りから始まり、特に“学習成果の把握と可視化”においては3つのポリシーを踏まえて策定されたアセスメント・ポリシーに基づいて把握・可視化を行うべきであるもの、ディプロマ・ポリ

シーとの連関を重視し、「測定のための測定」に陥らないように注意すべき、といった点についてのご説明をいただきました。また、現場の対応として、教育研究実施組織の明確化や主要授業科目と基幹教員制度の対応等を踏まえ、今後対応が求められる事項についても詳しくお話をいただきました。

当日は、部局長の教員に加え、その他教職員も多くの参加があり、活発な質疑応答も繰り広げられました。参加者が自らの立場で、今後の対応事項やその必要性をしっかりと考える時間となりました。

参加者内訳

所 属		人 数
学内	教員	26名
	職員	20名
計		46名



多くの教職員が参加



宮林氏によるご講演

FD・SDセミナー3

主催：内部質保証委員会、全学自己点検・評価委員会
共催：教育イノベーション委員会FD・SD小委員会

「自己点検・評価活動および 第4期認証評価への理解を深め、 対応すべき事項を知る」

講師 松坂 顕範 氏 (大学基準協会 評価研究部 企画・調査研究課課長)

日時 2024年7月30日(火) 17時30分～19時

場所 データサイエンススクエア(921教室)

参加対象 本学教職員

2025年度から始まる第4期認証評価は、学習成果を基軸に据えた内部質保証が重視され、個々の学生が身につけた能力(学習成果)を把握するとともに、大学においては、日常的に教育課程・教育方法の改善・向上につなげることが肝要となります。

こうした背景より、本学の認証評価機関である大学基準協会より松坂氏をお招きし、第4期認証評価への移行に伴い変更となった点や、新たに導入される「学生からの意見収集」、「学外ステークホルダーインタビュー」等を含め、大学が対応すべき事項やそのポイントについてお話をいただきました。大学評価の基準となる「大学基準」について、あらためて重要なポイントを解説いただくとともに、第4期では、大学におけ

る各種取組の有効性・達成度を重視する評価となる点についてもお話をいただきました。

なお、本講演は内部質保証委員会および全学自己点検・評価委員会の合同会合として委員は全員出席するとともに、教育イノベーション委員会FD・SD小委員が共催となり、テーマに興味のある教職員の参加を可能とする形で開催いたしました。また、本講演に先立ち、参加者には「内部質保証システムに関する組織図」を含め、本学の自己点検・評価の現状をまとめた資料を配付いたしました。ご講演内容と併せて本学の現状を知っていただき、自己点検・評価の重要性および本学におけるプロセスをあらためて認識できる場となり、参加者各自が真剣に考える時間となりました。



松坂氏による説明の様子

参加者内訳

所 属		人 数
学内	教員	29名
	職員	11名
計		40名

FD・SDセミナー4

主催：教育イノベーション委員会FD・SD小委員会
**「生成 AI との幸せな付き合い方
 ～テクノロジーを味方につけよう～【事務業務編】」**

講師 鈴木 翔太 氏(東北大学 情報部 デジタル変革推進課 専門職員)

日時 2025年2月27日(木) 15時～

場所 831教室 参加対象 成城学園教職員



鈴木氏によるご講演の様子

ChatGPTの登場以降、生成AI技術は急速に進化し、高等教育機関においてもその活用が注目を集めています。本セミナーでは、大学事務における生成AIの導入と活用について、東北大学デジタル変革推進課の鈴木翔太氏を講師に迎え、同大学におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)の先進的な取り組みをについて、ご講演いただきました。

冒頭では、生成AIの急速な普及について、総務省の統計をもとに解説があり、今後大学業務にも大きな影響を与えることが指摘されました。東北大学では、ニューノーマル時代にふさわしい教育・研究環境の整備、教職員にとって魅力ある職場づくりなどをDXの目的に掲げ、生成AIをその中核に据えています。

具体的な導入事例としては、学内向け生成AIチャットボット「Tohoku University GAI」や、Google・MicrosoftのAIサービス(Gemini、Copilot、NotebookLM等)を活用した業務効率化の事例が紹介されました。議事録作成、翻訳、論文要約など多様な業務に応

用されており、特に大学独自の規定をAIが検索し出力結果に反映させる「RAG(検索拡張生成)」の活用に参加者の関心が集まりました。

講演の中では、教員の入力文字数が最も多いことから幅広く利活用がなされていることも紹介されました。教育・研究活動にも通じる内容が多く、教職員共通の課題として生成AIの可能性を考える有意義な機会となりました。

講演の中では、教員の入力文字数が最も多いことから幅広く利活用がなされていることも紹介されました。教育・研究活動にも通じる内容が多く、教職員共通の課題として生成AIの可能性を考える有意義な機会となりました。

参加者内訳

所 属		人 数
学内	教員	7名
	職員	23名
計		30名



参加教職員からも質問が多数寄せられました。

FD・SDセミナー5

主催：教育イノベーション委員会FD・SD小委員会 「生成 AI との幸せな付き合い方 ～テクノロジーを味方につけよう～【教育利用編】」

講師 岩崎 千晶 氏 (関西大学教育推進部教授・教育開発支援センター長)

日時 2025年3月13日(木) 15時～

場所 311教室 参加対象 成城学園教職員

近年、生成AIの急速な発展により、大学教育におけるその取り扱いが大きな関心を集めています。本セミナーでは、【事務業務編】に続き【教育利用編】として、関西大学の岩崎千晶先生をお招きし、「生成AIによって教育・学習活動はどのように変わるのか」、「教員が教育に導入する際に配慮すべき課題とは何か」について、具体的な事例を交えてご講演いただきました。

セミナーではまず、参加者の生成AIの利用状況を確認した上で、実際にプロンプト(指示文)を入力し、出力された結果をもとに解説が行われました。「指示の仕方によって出力内容が大きく変わること」や、「必ずしも事実に基づかない情報が含まれること」など、生成AIを教育に取り入れる際に前提として押さえておくべきポイントが示されました。また、教員自身が生成AIに関する一定の知識と方針を持ち、学生にもその利点と注意点を正しく理解させる必要性が強調されました。大学による方針や支援の例としては、関西大学をはじめ、Purdue UniversityやUniversity of Hawaiiのガイドラインやシラバス記載の事例が紹介されました。さらに、岩崎先生ご自身の実践として、初年次教育のライティング指導において、学習ループリックをもとに生成AIが個別フィードバックを作成する取り組みも紹介されました。加えて、「どの能力を育成したいのか」を明確にし、その上で教育目的と整合する形で生成AIを活用

すること、単なる禁止・許可の二項対立ではなく、授業設計の一部として生成AIとの関係性を丁寧に考える視点が重要であることが述べられました。

セミナー当日は、大学の教職員のみならず、本学園教職員も複数名の参加がありました。生成AIと共に学ぶ時代において、教員や学生にとっての「生成AIとの幸せな付き合い方」を考える、多くの示唆を得る貴重な機会となりました。

参加者内訳

所 属		人 数
学内	教員	16名
	職員	11名
計		27名



岩崎先生によるご講演の様子

法学部

池田 雅則 教授

法学資料室の歴史とこれから

法学資料室の45年



本稿は、法学部における2024年度FD・SDへの取り組みについて報告をするものではあるが、各学部・センターでこの欄を順次担当していることを踏まえ、2024年度だけではなく、前後に少し広げて報告の対象としたい。

法学部では、従来から、FD・SDセミナーとしてアドホックに開催するだけでなく、法学教育の改善を目的とした継続的な活動を行っている。すなわち、法学部では、カリキュラム検証委員会を学部長・学科主任・学部教務委員によって構成し、この委員会において、法学部のカリキュラムがあるべき法学教育にとって効率的であるのか、どのように改善を図ることができるのかを検討している。この検討結果は、随時、法学部教授会に報告され、学部教務委員会での審議を経て、実現を図っている。この活動によって、法学部のカリキュラムは、不断の検討を経て、常にブラッシュアップが図られている。今年度に入って、具体的に、国際法領域および刑事法領域について、従来通年4単位で提供されていた科目(国際経済法・国際組織法・刑事訴訟法・刑事政策)のそれぞれを半期2単位科目2つに分割して、提供することの提案がされている。これらは、学生の修学状況を勘案した単位取得の柔軟性を確保することと、現代的な課題への科目内容の適合性を向上させることなどを目的としている。なお、このカリキュラム変更は、2025年7月16日開催の法学部教授会において承認されている。

そして、テーマを設定してのFD・SDセミナーをも開催している。

2023年度は、2023年10月4日(水)に法学部および法学研究科合同で開催され、法学部に関しては「進路状況、法学部カリキュラム、学習環境の整備、志願者状況等」について、そして法学研究科についても「法学研究科の現状と課題」について、それぞれ川・法学部長と亀岡・法学研究科長から資料を基に説明を受け、参加教員間での質疑応答を踏まえて、法学部および法学研究科の現況についての認識の点で共通理解を形成することに努めた。なお、本法学部出身者がどのような進路に進んでいるのかを含む情報は、別途、資料としてまとめられ、指定校を中心とする学部教員による出張講義の際に、先方の進路担当教員に提供・説明をすることにより、高等学校教員に成城大学法学部をきちんと認識してもらうための一助としている。

2024年度は、2025年3月1日(土)に法学部FD・SD研修会(法学研究科共催)が開催され、「現行カリキュラムにおける初年度民法講義の一実践例」というテーマで、民法担当教員である川教授から、民法の初年度教育として何をどのように教授するのかについて、報告者である川教授の実践経験に基づいて報告を受け、専門分野を超えた活発な質疑応答が行われた。

また、2025年3月7日(金)に法学研究科FD・SD研修会(法学部共催)として「法学資料室の歴史とこれから」というテーマで、法学資料室の隈本氏および金澤氏から、法学資料室がどのような経緯でどのようなものとして企画され、形成されてきたかの歴史につ

2024年度大学院法学研究科FD・SD研修
法学資料室のこれから

2025年3月7日(金)
法学資料室 金澤敬子

いての報告と、法学領域における資料の存在形式の変化(紙媒体から電子資料化へ)、価格の高騰、施設利用状況の変化などを踏まえて、今後の法学資料室のあり方についての報告とが行われた。この報告において、法学部教員として研究教育活動を継続する上で必須の施設である法学資料室の現状についての認識を深めるとともに、今後の法学資料室のあり方についての共通認識を醸成することに役立つと思われる。

そもそも、われわれが所属する成城大学という大学がどのように形成されてきたのかを知ることは、本学においてどのような教育を行うのかを考える上で、その出発点として極めて重要である。このような観点から、2025年6月4日(水)に法学部・法学研究科FD・SD研修会として、「成城学校と成城学園を知る」というテーマで、法学部の桑原教授から、報告があった。成城大学の前身である成城学校の歴史、創設者である澤柳政太郎の人物像、とりわけ京大澤柳事件の経緯、澤柳の構想した「成城の教育」内容を特徴づける教育理念や教育方法、さらに成城大学の理念としてあげられる「真・善・美」の内容などについて文献史料に依拠した極めて精緻な報告であり、その後の質疑も相まって成城大学の沿革についての新たな認識を得ることができたと思われる。もちろん、この講演が直ちに各教員の教育活動の改善に直結するわけではないにしても、歴史的に形成されてきた成城大学のブランドイメージを認識することは法学部全体としての教育姿勢を形成する一助になるもの

と思われる。

なお、2024年11月20日(水)には、法学部スタッフセミナーとして、慶應義塾大学法学部の大串敦教授をお迎えして、「ロシア・ウクライナ戦争の開戦原因を考える」というテーマで講演が行われた。2022年2月以来いまだ終結していないロシア・ウクライナ戦争がなぜ起こったのかを知ることが、この戦争の終結がどのような形になるかを考える上で必要であり重要であるという視点からの貴重な報告であった。SNSや報道などを通じて、われわれはある程度この戦争の現状を知ることができて、なぜ起こったのかはなかなか知ることができない。たいへん貴重な講演であった。

令和6年度 法学部スタッフセミナーのお知らせ

この度、現代法研究室が主催して、以下の要領で法学部スタッフセミナーを開催することとなりました。

これは、基本的には、成城大学法学部教職員を対象とするものですが、広く成城大学法学研究科・法学部学生の参加を歓迎します。関心のある学生のみなさんは、ふるってご参加ください。

記

講師 大串 敦 氏
(慶應義塾大学 法学部政治学科 教授)

演題 『ロシア・ウクライナ戦争の開戦原因を考える』

日時 2024年11月20日(水) 17:30～

場所 5号館1階会議室

法学部 現代法研究室



共通教育研究センター

阿部 勘一 教授

共通教育研究センターでは、2007年の創立以来、独自のFD活動を行ってきた。既に本誌でも何度か紹介しているが（本誌2016および2020・2021）、ここでは、長年にわたって続けている活動として、2010年度から開催してきた「公開FDワークショップ」について、改めて紹介する。このワークショップは、全学共通教育科目「WRD」の授業方法を研究する会を試行的に始めたことに端を発している。なお科目名の「WRD」は、「書く（Write）・読む（Read）・議論する（Debate）」の頭文字から命名されていることは、様々な機会において紹介しているので、学内関係者であれば聞いたことがあるはずである。

「WRD」は、いわゆる初年次教育にあたるスタディスキルにかんする科目であるが、それゆえに、大学で教鞭を執るような研究者が教えるのには、様々な意識改革が必要である。そのために、このFDワークショップでは、初年次教育を実践している研究者や、スタディスキル、特に「書く」ことについて表現教育を研究している研究者を迎えて、実践例や教育に対する考え方を問題提起として講演をしていただいていた。

FDワークショップの内容は、紀要『成城大学 共通教育論集』に紙上再録として掲載するとともに、2019年3月には、このワークショップの内容をもとに、『表現と教養』（東谷護編著、ナカニシヤ出版）を出版した。2019年度（2020年2月開催）までは毎年開催してきたFDワークショップであったが、その後、COVID-19による感染症の広がりによっていわゆる「コロナ禍」となり、毎年開催することが困難となった。「コロナ禍」による数年の中断を経て、2023年度から再

びFDワークショップを開催することとなった。

主として「WRD」科目の教授方法を共有する内容であるFDワークショップであるが、2024年度のFDワークショップは、異なる角度から「表現教育の可能性」にアプローチした。大学教育における「表現教育」というと、まさに「WRD」の頭文字に見られる内容、とりわけ「書く」（あるいは「読む」）内容になってしまうことから、先述したように「書く」ことにかんする教育が主たるテーマとなってしまう。しかし、2024年度は、このような狭義の「表現教育」のみならず、広義の「表現教育の可能性」や「コミュニケーション教育」という観点から「表現教育」を考える新たな試みを実施した。

具体的には、「身体表現とコミュニケーション」と題し、ダンス教育をテーマにしたワークショップを開催した。コーディネーターは國寶真美先生（社会イノベーション学部）で、講師に、舞踏家で世界各地でダンスワークショップを実施されている松岡大氏（NPO法人LAND FES代表）を迎え、実際に身体を動かすワークショップを取り入れながら行われた。このワークショップを通して、身体表現の可能性について考えるとともに、松岡氏が取り組んでいるダンスを取り入れたワークショップ実践の紹介を通して、特にコミュニケーションと表現教育について考えさせられる機会を得ることができた。

なお、2024年度のFDワークショップで取り上げたテーマについては、小さな布石があった。第8回のFDワークショップ（2017年度）で、講師の谷美奈先



生(帝塚山大学准教授、2025年現在、同大学教授)が、「STEM+ART が求められる時代に」と題した問題提起の講演の中で、谷先生が実践されている、誰でも参加できるようなアートワークショップ「クリエイティブベーシック」と、障がいのある人が高等教育における研究活動に参加する「インクルーシブリサーチ」について話をされた。これらは、知識や技術(ましてや言語的リテラシー)の有無を問わず、様々なアイデアを思考し、創造性を高める教育実践である。知識や「書く」「読む」スキルの有無を問わず、思考する力を養うこと、創造性を高めることは、まさに表現する力を高めることである。この時のテーマは、「書く」「読む」ことをテーマとしたものではなかったが、「書く」「読む」以前に必要な思考や創造性を教育の中でどのように活かすかという、「表現教育」における根本的な問題提起であった。この布石が、ダンス教育の実践を通して表現教育の可能性を考える2024年度のFDワークショップとして花開いたといえる。

さて、これまでのFDワークショップを振り返ってみて、初年次教育としての表現教育の可能性とそのあり方について考えてみたい。

大学教育における「表現」というと、学びの成果をアウトプットすることが想起される。具体的には、レポートや論文にみられる「書く」ことや、プレゼンテーションにみられる「話す」ことである。これらは、大学での学びにおいて暗黙のうちに必要なことと認識されており、そのためのリテラシーが必要であることも、大学教育に携わる人々には共有されているはずである。ただ、そのリテラシーを具体的な教育内容に落とし込む際、「書き方」「話し方」という機能的な方法論に陥ってしまう傾向がある。教育する側からすれば、それらの手段と方法を教えるのが、学生にとってわかりやすいと考えてしまう結果だといえる。

しかし、これまでのFDワークショップの内容に共通するのは、手段と方法というよりも、その背景や前提となる論理的な思考の重要性や、そもそも何を考えるか、すなわち「問い」を見つけ思考することの重要性と、それらの教育の必要性であった。そもそも

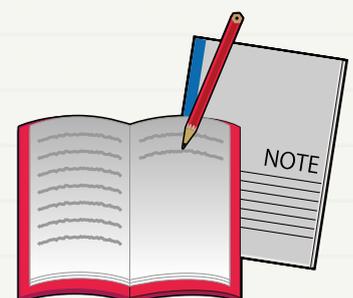
何を書くのかを
考えることがない、あるいは
考えようとしていない学生に対して、どのように考えるための種を見つけてもらうかを体感してもらうことは、特に必要な教育である。



まさに、「學而不思則罔」である。そして、このような思考力は、知識として説明し与えればいいというのではなく、まさに学生自身が体感することを通さないと身につかないものである。

これまでFDワークショップに登壇された先生方は、このような共通した問題意識のもとに、各人の具体的な教育実践についても話されていたが、どの先生方の実践も、試行錯誤を重ねながら取り組んでいたのには、頭が下がる思いであった。各先生方の実践と同じことはとてもできないと思ったが(参加者も同様に思ったはずである)、前述した「表現教育」のあり方を共有しつつ、そのエッセンスやティップス(ちょっとしたコツ)を、「WRD」の授業において活かしていければ(もらえれば)と考えている。

今後も、本センターのFDワークショップは、「表現教育の可能性」というテーマを維持しつつ、「書き方」「話し方」という初年次教育のスタンダードなテーマのみならず、広く思考力やコミュニケーション力といったテーマも見据えて開催していきたいと考えている。



「授業カタログ 2024」を刊行しました！

授業カタログは、先生方の優れた取り組みや授業方法をご紹介します、大学全体の授業改善や効果的な履修指導に寄与することを目的に毎年度刊行しています。

2024年度版では、新たな試みとして、2名の先生にご登場いただいた内、1名の先生の授業において、学習支援を中心に活動する大学公認団体「ピアサポーター」の学生が授業取材を行いました。

先生方の工夫と実際に受講した学生の声に加え、ピアサポーター学生の視点から見た授業全体を誌面上で視覚的に共有することで、大学全体の授業改善や効果的な履修指導につながれば幸いに存じます。

2025年度版の作成の際も、先生方におかれましては、授業の取材・撮影のご協力をお願いいたします。



掲載内容を大学HPで公開しております。ぜひご覧ください。

2025年度活動計画

- 2025年 4月 新任教員研修会
 - 5月 FD・SDセミナー「THE 日本大学ランキング 解説会」
 - 6月 2024年度授業改善アンケート集計結果報告公開
 - 7月 FD・SDセミナー「学習成果の可視化としての『PEPA』導入および活用方法の事例」
ベストティーチャー賞表彰式
前期授業改善アンケートの実施
 - 9月 前期授業改善アンケート集計結果報告公開
成城大学FD・SD Activity Report 2024年度版発行
 - 12月 後期授業改善アンケートの実施
 - 2026年 3月 2026年度事業計画、予算概算要求書確定
授業カタログ発行
- ※1 時期が未定の事業
- ・FD・SDにかかる研修会参加、他大学視察
 - ・FD・SD講演会・ワークショップ
- ※2 事情により、上記の予定が変更になる場合があります。

成城大学教育イノベーション委員会FD・SD小委員会委員 (2025.5.1現在)

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 委員長 都築幸恵 (教育イノベーション委員会委員長) | |
| 委員 都築幸恵 (教育イノベーションセンター長) | 川田牧人 (文学研究科) |
| 山重芳子 (教務部長) | 足立友子 (法学研究科) |
| 境新一 (経済学部・経済学研究科) | 加藤敦宣 (社会イノベーション研究科) |
| 吉川 齊 (文芸学部) | 鋤本豊博 (全学共通教育運営協議会議長) |
| 池田雅則 (法学部) | 新井和之 (事務局長) |
| 竹之内玲子 (社会イノベーション学部) | |

発行日 2025年9月

2024年度成城大学教育イノベーション委員会FD・SD小委員会委員

委員長 都築幸恵 (教育イノベーション委員会委員長)

委員 都築幸恵 (教育イノベーションセンター長) 山重芳子 (教務部長) 境新一 (経済学部・経済学研究科) 宮崎修多 (文芸学部・文学研究科) 池田雅則 (法学部)
青山征彦 (社会イノベーション学部) 鋤本豊博 (法学研究科) 加藤敦宣 (社会イノベーション研究科) 上野英二 (全学共通教育運営協議会議長) 新井和之 (事務局長)